

2018年4月10日～12日（現地時間）にカナダ・オンタリオ州トロントにて、Problem Gambling（問題あるギャンブラー：以下PG）に関する予防に注力している、独立非営利組織RGC（The Responsible Gambling Council）主催で“2018 DISCOVERY”というカンファレンスが開催された。カナダ・英国・北欧・米国・アジアを初めとする世界の第一線の研究者やオペレーターが一堂に会し Responsible Gambling（以下RG）推進に向けた研究成果や具体的な対策についての情報共有、意見交換が行われた。

今回、当法人から西村代表理事及び1名のRCPGスタッフが参加。本レポートは、今回の訪問の様子をダイジェストでまとめたもの。



カンファレンス概要

主 催 者	RGC (The Responsible Gambling Council) http://www.responsiblegambling.org/
名 称	“2018 DISCOVERY”
日 時	2018年4月10日～12日（現地時間）
場 所	Marriott Downtown at CF Toronto Eaton Center



RGCの社長CEO
Shelley White

RCPGとしての今回の目的

- 1) “2018 DISCOVERY”の聴講、および研究者との意見交換
- 2) 総合ギャンブラー対策プログラム「PlaySmart」の理解
- 3) RGC社、RG+社、OLG社とのビジネスミーティング
- 4) トロント市内および近郊カジノ視察（5か所）

RGC (The Responsible Gambling Council)

RGCはPGの予防に力をいれているカナダオンタリオ州政府の関連独立非営利組織。



RESPONSIBLE GAMBLING COUNCIL
Building Knowledge >> Creating Solutions

RGCは30年以上の研究、評価、教育の実績を背景に活動している。RGCのRGプログラムは、プレイヤーやコミュニティーを手助けするだけでなく、企業のビジネス活動を長期間継続可能なものにする方法としても高い評価を受けている。

「RG CHECK」というオリジナルサービスは、多くの企業に取り入れられ、シンガポールのゲンティン社も導入している。また、「PlaySmart」のスタッフ運営も行っている。



RG+ (The Responsible Gambling Plus)

RG+はRGCの部門の1つで、下記が特徴の世界有数の組織である。

- ・傘下の中でRGの専門家最大のチーム
- ・30年以上のギャンブラー問題の経験を持つ者たちによって設立
- ・ゲーミング業界における実践的作業の豊富な経験
- ・広範囲なゲーミング業界のデータベース
- ・プレイヤーと一般市民とのコミュニケーションの前例のない歴史



RCPGとしての今回の目的（続き）

OLG (Ontario Lottery and Gaming Corporation)

1975年、カナダの州政府により設立された。
OLGはオンタリオ州、地域社会、人々への還元役に役立つ人気の宝くじやゲーミングエンターテインメントを提供してきた。

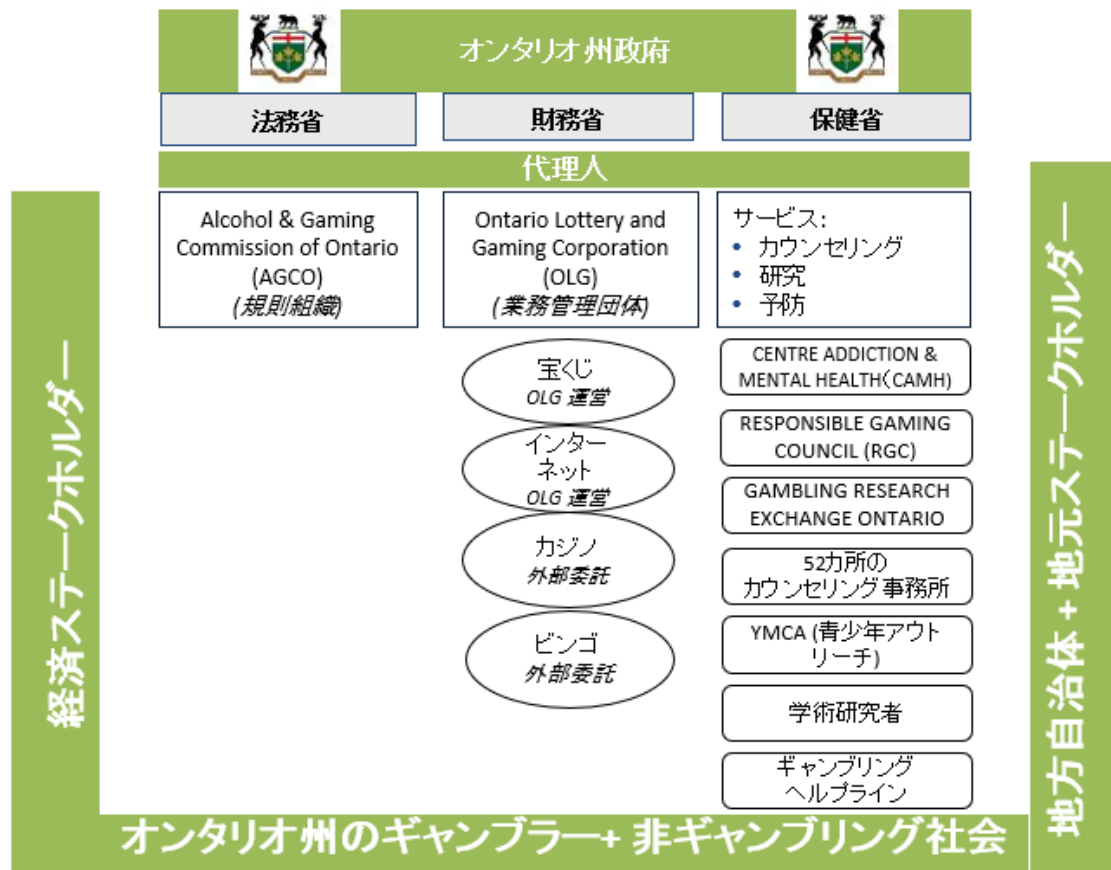
また、OLGはすべてのプレイヤーに情報の通知による選択を可能にして、PGの影響を防止し軽減するように取り組んでいる。そのツールとして、PGの予防・従業員教育・プレイヤーへの注意喚起や各種情報提供などを包括する総合的なギャンブラー教育教材であるRGプログラム「PlaySmart」を独自に開発し、展開。



近年、よりその業務を細分化し運用していくことを主眼とした組織再編を行い、OLGの役割としては、レギュレーション策定や戦略立案に力を入れている。

オンタリオ州はPGの軽減とRGの予防に毎年5700万カナダドル（約50億円）を投資している。

オンタリオ州内のゲーミング



4月11日・12日 カンファレンス聴講内容（一部抜粋）

タイトル	講演者	概要
基調講演：笑い飛ばしてかかってこい！	Jessica Holmes (a celebrated comedian, author and mental health advocate)	スピーカーはカナダの長寿テレビ番組のキャストを務めたことがあるコメディアンで、本人のうつとの経験と回復についてユーモアを交えて熱く語った。 20年前のカナダではこのようなプレゼンテーションは絶対あり得なかったけど、今は様々な企業や団体に講演依頼があるぐらいメンタルヘルスがオープンに語られるようになってきたと論じた。
先住民コミュニティでのギャンブリングの影響	Darrel Maniowabi (associate professor in the Anthropology Program, School of Northern and Community Studies at Laurentian University) Patricia Cook (Saskatchewan Indian Gaming Authority(SIGA)) Sheila wahsquonaikeshik (先住民 NGO in northern Ontario), Angela Voght (先住民コーディネーター for BC Responsible and Problem Gambling Program)	多くの北米先住民コミュニティでは、欧州からの移民支配により、伝統的な文化活動が長年禁じられ、そこから多くの社会問題が発生した。 2007年に国連で採択されたUNDRIP（先住民族の権利に関する国際連合宣言）をカナダ政府が全てを受け入れないと真の和解が出来ないと主張。 カジノライセンスを持つSIGAは州内の74先住民部族が100%オーナーで、利益の50%は先住民基金25%はコミュニティ開発団体、25%はサスカチュワン州政府の一般収入として分けられる他、毎年1225万ドルが先住民コミュニティの嗜癖（依存）対策（アルコール、薬物、ギャンブル等）に支給されている。
ゲームなのかギャンブルなのか？それはあなたの判断	Gabe Zichermann (Onward社CEO) Christopher McCron (ゲーマー) Christoper Hansford (Digital Fairness社) Sally Gainsbury (Deputy Director of the Gambling Treatment and Research Clinic) Craig Slater (General Counsel and Director of Legal Services at the Alcohol and Gaming Commission of Ontario(AGCO))	最近ではゲームなのかギャンブルなのかわかりづらい商品が増えてきた。その中には、日本で「ガチャ」と知られている課金形態に似ている「Loot Box：ルートボックス」が話題を呼んでいる。 ゲーム設定だけではなく法律や青少年の影響などの観点から語られた。 またゲームでプレイヤーが使う「スキン」を利用した賭博サイトの普及が若者をギャンブリングに依存させていると論じた。
パフォーマンスギャップを埋めるためのトレーニングから実施	Jenine Robinson (Director of the Centre for the Advancement of Best Practices and RG+ at the Responsible Gambling Council) Lena Quilty (Senior Scientist at the CAMH and an assistant Professor at the University of Toronto) Ian Neilson (Security Professional), Alex Taylor	RGCがデザインと実施したRG従業員トレーニングを受けることによってプレイヤーのPG症状がわかりやすくなり、自信をもってすばやく対応できるようになった。 また、問題が発生する前に常連客だけでなく、食事だけのために来るお客とのコミュニケーションも取るべきであると語った。
基調講演：ストーリーテリングの力	Terry O'Reilly (CBC ラジオの司会者)	人間が判断する時は頭で2割、心（ハート）で8割を使うため、プレゼンテーションでは数字やデータだけではなく実際の出来事をストーリーとして伝えれば、相手も覚えてくれて説得されやすいと主張。ストーリーテリングを通じて理解を求めるだけではなく「人を動かす」ことができると論じた。

4月11日・12日 カンファレンス聴講内容（続き）

マーケティングを通じて行動を変えていく、メッセージを伝えるだけではない

Keith Barry (Vice-President of Strategy at Ig2 Toronto- Canada's largest independent advertising agency)

Chris Hirsch (Partner, VP, Executive Creative Director of Ig2 Toronto),

「Bell Let's Talk」はメンタルヘルスの教育・研究を促進し、問題認識を高め、そのスティグマ（不名誉）を取り除くことを目標にするソーシャルメディアを通じたキャンペーンで、募金を寄与している。今年は1兆3800万件のリスポンスがあり、スポンサーのBell Canada社は692万ドル（6億円弱）を寄付した。RGCのソーシャル・マーケティングではPGに対してスティグマ（不名誉）を止めて、問題ある行動を変えていくことがメッセージで、PGで悩んでいる個人、家族や友達、一般社会など関係者にそれが浸透しているかが常に確認が不可欠であった。新たな取り組みなのでこれから成果を測ることになる。

国境を渡ったRG活動

Joseph Bufalino (Director of Responsible Gambling at Marina Bay Sands in Singapore)

Axel Lyckberg (product owner of Svenska Spels personalized digital responsible gambling tool Playscan)

シンガポール、スウェーデン、オンタリオ州で行われているRG対策についてプレゼンテーションが行われた。各国それぞれの対策を行っているが、3カ国の対策を比較するとキャンブルだけではなく日常的に政府が国民の生活や行動にどれぐらい関連しているかと感じたと論じた。

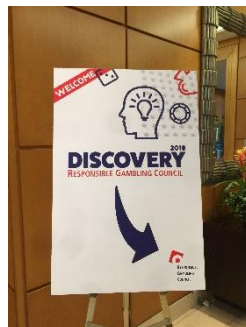
リスクと機会（eSports）

Peter Czegledy (corporate partner at Aird & Berlis LLP)

Christopher McCron (ゲーマー)
Tom Mungham (AGCO COO)

Ryan Pallett

急成長中のeスポーツの観客層は若くて安定した職業や収入もあり、IT知識とブランド志向も高く、スポーツ観戦産業としては望ましい市場であるが、ゲームの設定が未成年者がギャンプリングに関わる可能性が比較的高くて、現金だけではなくビットコインなど仮想通貨も使用されており、ゲームにも「スキン（ゲームツール）」の売買問題など監修管理するには従来のスポーツギャンブルと違う要素もある。eスポーツが一般社会へ浸透するのは時間の問題で、多数の課題を解決するため時間が必要だが、広い心を持って理解をして欲しいと述べた。



ポスターセッション



CAMH (※) やGREGOなどの研究チームや団体、企業がポスターセッションにて成果を発表。西村代表が各ブースを回り、積極的な意見交換を行った。

※CAMH (Centre for Addiction and Mental Health <http://www.camh.ca/>) は、嗜癖（依存）分野と精神保健におけるカナダ最大（530床、スタッフ3,000人）かつ最も先進的な公営病院。本領域における優れたヘルプラインを提供し、様々な関連専門職種の教育実習機能を受け持つとともに、各種研究活動も積極的に行っている。

CAMHツアー

カンファレンスに先立ってCAMH内で行われている嗜癖（依存）治療プログラムの見学会が用意されていたので、当日申込にて参加してきた。世界の中でも有名なメンタルヘルスの大家のCAMHのユニークでバラエティ溢れるプログラム群の中でスピリチュアルプログラムを見学することができた。



ミーティング

ORGC主要メンバー、州政府とのディナーミーティング



○米国IRオペレーター企業とのランチミーティング



(右) Jennifer Shatley
(米国IRオペレーター企業 Responsible Gaming担当)

(左) Dean Hestermann
(米国IRオペレーター企業 Issues Management & strategic Communications, 政府渉外 ディレクター)



○OLG社とのビジネスミーティング

OLG社の戦略担当役員及び世界のオペレーターが導入を検討しているRG対策パッケージである「PlaySmart」開発責任者との間で膝を交えたビジネスミーティングを実施。本ミーティングにて「PlaySmart」の理解が深まり、日本での展開の可能性についても意見交換し、有意義な機会となった。



OLG社の
Executive Director Paul Pellizzari

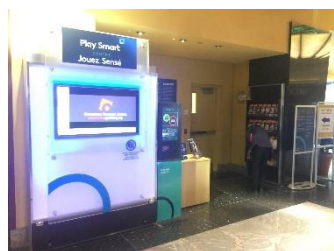
PlaySmart (プレイスマート)

①「PlaySmart」は、PGの影響を防止・軽減することを可能にするツールとしてOLGが独自に開発したPGの予防・従業員教育・プレイヤーへの注意喚起や各種情報通知等による自身の行動選択を促すなどの要素を包括する総合的なRGプログラムである。

オンタリオ州内で展開されており、外部の研究所や研究者らと連携して様々な調査や科学的な研究を行い、その成果をもとに何度も改良・改定が重ねられ今日に至っている。

②全てのカジノ施設内に「PlaySmart」インフォメーションセンターが常設されており、利用者に求められる役割に応じて専門的なトレーニングを受けたスタッフを配置して運用中。

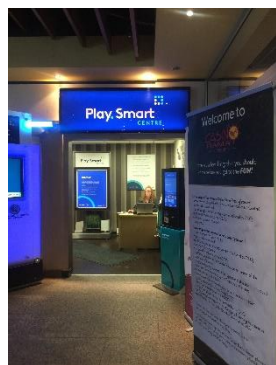
③登録したプレイヤーのプレイ履歴の分析によるアルゴリズム解析を研究開発したり、個人でのプレイコントロールを支援するWEB上のコンテンツを提供するなど積極的にツールを活用してもらえ環境に力を入れていた。



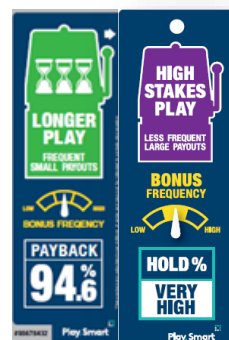
競馬場とカジノ併設
施設内にあるPlaySmartセンター



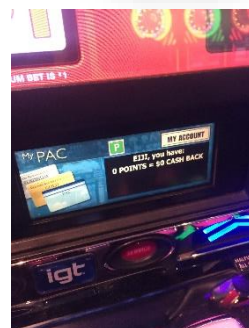
PlaySmartのガイドコンテンツ。



視察した全カジノ施設には、全てPlaySmart
インフォメーションセンターのコーナーが常設。



インフォメーションセンター内に常設
されているスロットマシンの内部構造
を説明するためのデモ機。



PlaySmartの個人カード

PlaySmart

PlaySmart インフォメーションセンター
のコーナー横にあるパンフレット。世界各国の言語版も用意されている。

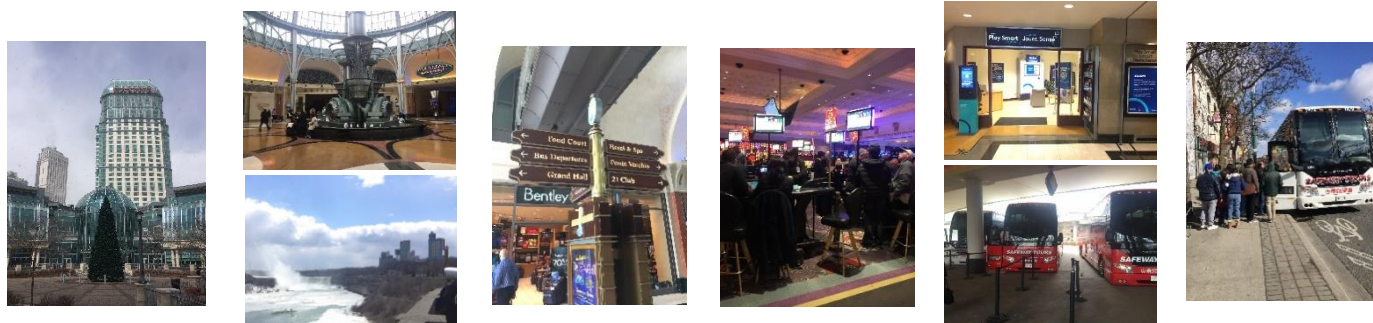
オンタリオ州 トロント市内および近郊カジノ視察

① Fallsview Casino Resort

2004年オープン、ナイアガラ地区に二つあるカジノの中で新しい方のカジノ。オンタリオ最大のポーカールームが自慢。ホテル客室374、ゲーミングフロア18,580平米、スロットマシン3,000台、テーブル130台

→ トロント市内チャイナタウンからカジノへの直行バス有り。運賃は非会員が片道\$25、一般会員\$8、上級会員無料。

入場チェックの警備員が外見で年齢確認を行っており、入場前にPAC会員カードを作っておくと確認はカードで済む。カードは、3種類（Free, GOLD, PLATINUM）。FREEでも入会で10ドルのキャッシュバックがついており、食事の割引などの特典が受けられる。観光地ではあるもののストリップに比べて明らかに地元の高齢層（中国系カナダ人、次いで白人）のプレイヤーが多く、ローカルカジノのような印象を持った。総合対策パッケージ“PlaySmart”を導入。カジノの入り口の外に、PlaySmart専用センターがあった。カジノ内では、ATMや自動現金払戻機の横に、会員カード（Players Advanced Club:PAC）を利用した自己制限設定用の機械が設置されていた。



② CASINO NIAGARA

1996年オープン。ナイアガラの繁華街であるクリフトンヒル近くにあるカジノ。スポーツブックが楽しめるのが最大のポイント。ゲーミングフロア8,800平米、スロットマシン1,300台、テーブル40台。会員カード（PAC）は徒歩でも行けるFallsview Casinoとどちらでも使えるようになっている。徒歩でも行ける。

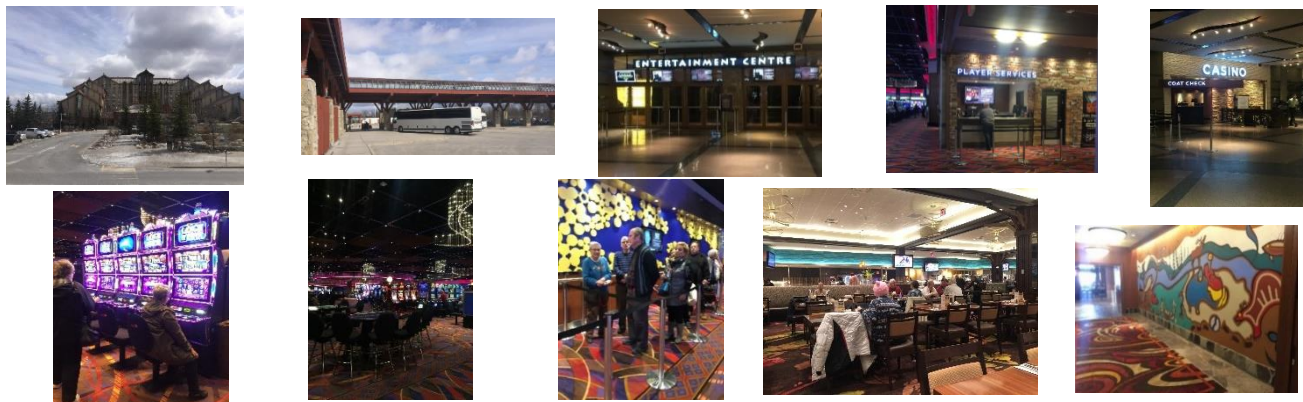
白人高齢者が多く、古くからの常連プレイヤーが多い印象。「LEV2L」という名称の食事をとりながらスポーツベッティングや依存対策として費用のかからない無料のビデオテーブルゲーム等ができるエリアがある。（275席、50台のプラズマTV）。



③ Casino Rama

カナダ最大、オンタリオ唯一のRama先住民（ファーストネーション）による民営カジノ。19万平米の敷地に289室のホテル、カジノフロア19,800平米の床面積を持つカジノ、5,000人収容のエンターテインメントセンター、10軒のレストランで構成。カジノには2,500台のスロットマシンと110台のテーブルゲームがある。会員カード（Players Passport Card）を作ると、レストラン割引など様々な特典が得られる。→ トロントから北へ約100キロ。オリリア近郊のインディアン・リザーベーション地域にあるカジノ。Highway400を通るのが一番近いがそれでもタクシーで約1.5時間以上。

ローカル色強く、プレイヤーは白人、ファースト・ネーションの人たちが主で、中国系住民はとても少ない。Play Smartのブースには、リーフレットや報提供用の電子表示機械が設置してあった。一日の利用者は8～10人、自己排除の申請や継続確認が多いとのこと。



オンタリオ州 トロント市内および近郊カジノ視察

④GEORGIAN DOWNS (OLG Slots at Georgian Downs) ↓

2001年にトロット競馬場がオープン。2009年にスロットマシンのみ（1,000台）が併設されたOLGのスロットカジノが併設。24時間365日営業。カジノのほかにもライブ・エンタメあり。特典ありのOLG社のPlayer Plus会員カードの使用率はきわめて高い。
→トロント市内から車で約1時間ほどの牧草地に囲まれた郊外に立地。

ローカル色強く、自家用車で来場、40～60代の白人プレイヤーが多い。客層やプレイしている様子は、日本の郊外にある大型パチンコホールや大型スロット専用ホールと似ている印象を持った。

Play Smartの有人の相談ブースあり。そのほか、連絡先やリーフレット乗せた小さなテーブルやスロット高額当選者の写真掲載ボードの下に、啓発・注意喚起のリーフレットが複数置いてあった。

リーフレットの数は、他のカジノより多く、リーフレットだけでなく、冊子も二種類置いてあった。それだけ問題が多いのかもしれないと感じた。

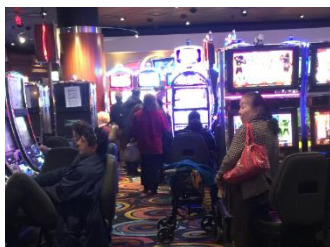


⑤Woodbine Racetrack

WOODBINE競馬場（1956年～）に併設されたスロットマシンのみ（3,000台）が設置された大型カジノ（日本のスロット専門店と同じ）。
→トロント・ピアソン国際空港の近くに位置し、バスはHighway27&Queens Plate Dr.で下車後徒歩約10分。

プレイヤーは地元住民中心で、年齢層、人種が多様。スロットマシンエリアにインド系住民、中華系、アフリカ系住民の参加者が多いのが目立った。稼働率は平日の夕方ではあったが50%を超えていた。

Play Smartのブースは、カジノ入り口の外に小さなカウンターのみのエリアがあるだけで、無人で相談部屋はなかった。Player Plus会員カードが利用されていた。リーフレットの種類は少なく、競馬場併設で同じOLGのスロットカジノでありながらGeorgian Downsと比べると簡素な印象を受けた。



以上、カナダ・オンタリオ州トロントにて行われたRGC社主催のカンファレンス参加についてレポートさせていただきました。写真等詳しくはHPをご覧ください。→<https://www.rcpg.or.jp/>
RCPGは、今後もResponsible GamingやProblem Gamblingについて、より実践的な対策に関する知見を高めるべく、精力的な活動を進めてまいります。